授与番号	甲第　1816　号

論文内容の要旨

Is the prognosis favorable in patients without cardiogenic shock on admission following acute myocardial infarction in left main trunk?
(左主幹部急性心筋梗塞のうち，入院時に心原性ショックを呈さない患者の予後は良好か？)

(森岡英美，肥田頼彦，伊藤智範，森野禎浩，水谷知泰，阿古潤哉，中野将孝，吉岡公一郎，伊刈裕二，伊波秀，佐久間理吏，田口功，石川哲也，杉村浩之，杉佳紀，松本万夫，御手洗敬信，國島友之，明石嘉浩，野村高広，上妻謙，福士圭，吉野秀朗)

(Journal of Coronary Artery Disease 26 巻 1 号，2020 年 3 月掲載予定)

Ⅰ．研究目的

左冠動脈主幹部病変の急性心筋梗塞(acute myocardial infraction at left main trunk; LM-AMI)は稀な疾患であるが，重篤な病態である．我々は左冠動脈主幹部病変のうち，心原性ショック群，非心原性ショック群に分け，それぞれの院内死亡の危険因子を評価する事を目的とした．

Ⅱ．研究対象ならび方法

1997 年から 2016 年にかけて東日本 8 大学 10 施設に入院した MONICA 基準を満たす AMI 患者のうち，LM が責任血管であった 183 例について登録研究を行った．後ろ向き観察研究を行い，心原性ショックの有無で 2 群に分け，患者背景や院内死亡率，AMI に対する治療内容を比較した．Cox の比例ハザード法を用いて，心原性ショックを伴わない LM-AMI の院内死亡に有意に影響している因子を評価した．

Ⅲ. 研究結果

LM-AMI 全 183 例中 89 例(48.6%)が心原性ショック群であった．単変量解析において，非心原性ショック群では糖尿病(危険比 2.56，95%信頼区間：1.08-16.09，p＝0.034)，最大 CK 値 10000IU/L 以上(危険比 6.29，95%信頼区間：2.60-15.25，p＜0.001)の院内死亡率の危険比が有意に高かった．また、非心原性ショック群の院内死亡率は Killip 分類が上昇するにつれ上昇し、多変量解析でも Killip 分類Ⅲ度は院内死亡の危険比が 4.59(95%信頼区間：1.09-19.35，p＝0.038)と有意に高かった．

一方で，心原性ショック群の単変量解析においては脂質異常症(危険比 1.81，95%信頼区間: 1.09-3.01，p=0.022)，入院時腎機能障害(eGFR＜60mL/min/1.73m2，危険比 2.30，95%信頼区間：1.15-4.60，p=0.019)，経皮的冠動脈形成術後冠動脈遅延造影 (primary percutaneous coronary intervention; primary PCI)(危険比 2.62，95%信頼区間：1.44-4.80，p=0.002)の院内死亡の危険比が有意に高かった．特に PCI 後冠動脈遅延造影は，入院時左心機能と入院時腎機能障害で調整した多変量解析においても危険比 2.83(95%信頼区間: 1.45-5.51，p=0.002)と有意であり，心原性ショック群の院内転帰に最も強く関連した．両群とも単変量解析における血清 HDL-C 値(mg/dL)の院内死亡の危険比は 0.95(95%信頼区間：0.95-1.00，p=0.032)と有意に低かった．

Ⅳ. 結　　語

LM-AMI のうち，心原性ショックを呈さない群の予後も不良であった．LM-AMI 患者で入院時に心原性ショックを呈する群，心原性ショックを呈さない群では院内死亡の危険因子は異なることが判明した．

論文審査結果の要旨

論文審査担当者
主査　教授　鈴木健二　（麻酔学講座）
副査　准教授　小松　隆　（内科学講座：循環器内科分野）
副査　准教授　田中文隆　（内科学講座：腎・高血圧内科分野）

本研究は，左冠動脈主管部病変による心筋梗塞症例（LM-AMI）を対象とした多施設共同によるコホート研究である．LM-AMIを来院時心原性ショックの有無で2群に分けて比較すると共にCox proportional hazard modelを用いて院内死亡に影響する因子について解析した．心原性ショックを呈した群では経皮的冠動脈形成後の造影遅延が院内死亡に最も強く関連し，非心原性ショック群では血中CK濃度の最高値10000IU/L以上が最も強く関連することを明らかにした．LM-AMIの予後予測に新知見を与え，今後本疾患に対する初期治療や予防的処置の指針改訂に寄与する優れた論文であり，学位に値する．

試験・試問の結果の要旨

虚血性心疾患の急性期治療および合併症の予防，さらに予後を左右する因子について試問し適切な解答を得た．学位に値する学識と指導能力を備えていることを認めた．

参考論文

1) $CHADS_2$ and modified CHA_2dS_2-VASc scores are useful for prediction of conges-tive heart failure in patients with nonvalvular atrial fibrillation
（$CHADS_2$スコアと改訂CHA_2dS_2-VAScスコアの算出は非弁膜症性心房細動を合併した患者の心不全発症の予測に役立つ）（肥田頼彦，他15名と共著）
Journal of Arrhythmia，33巻，5号
2) 非弁膜症性心房細動を有した入院患者に対する抗凝固療法の現況；岩手県立大船渡病院における後ろ向き研究　（松浦佑樹，他9名と共著）
岩手県立病院医学会雑誌，56巻，1号
3) 心原性脳梗塞と好酸球増加症を合併した左主幹部閉塞による急性心筋梗塞の1例
（森岡秀美，他9名と共著）
岩手県立病院医学会雑誌，56巻，1号